

## 「アフリカ成長支援の具体化」検討会（案）

### 1. 背景

- ・ 今年が日本が議長国となり、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）及びG8サミット（北海道洞爺湖）を開催する「開発の年」であり、アフリカ諸国はもとより、国際社会は日本政府が打ち出すアフリカ政策に対し強い関心と期待をもち、注視している。
- ・ TICAD IVでは「元気なアフリカ」をテーマとして、アフリカ諸国首脳や国際援助機関が一同に会して、(1)成長の加速化、(2)人間の安全保障の確立（MDGs達成と平和構築）、(3)気候変動・環境問題を軸とした議論が行われる予定である。また、TICAD IVでの議論は、G8サミットに反映されることになっている。
- ・ 国内でも、日本のアフリカ政策をめぐる議論は活発化している。例えば、上記(1)の成長の加速化については、JICA・JBICによる「アジアの経済成長とアフリカ開発」検討会（2007年7月から）、外務省「国際協力に関する有識者会議」中間報告（2008年1月）、「新しい日本のODAを語る会」マニフェスト（2007年10月）が提言を作成しているが、これらを通く問題意識や方向性には共通点が多く、また在京アフリカ外交団が取りまとめた提言（2007年3月）とも整合している。
- ・ 今後、こういった提言を行動に移していく必要がある。日本は、昨今の国際潮流の成長回帰を好機ととらえ、英国や世界銀行が取り組みを強化しつつある成長診断や複数国にまたがる地域開発（広域インフラ整備を含む）等に対して、「選択と集中」の観点から対象国・地域を検討し、東アジアの開発援助経験を活かして、相手国関係者との継続的な政策対話に基づく産業化戦略の策定・実施を含めて取り組むべきである。ODA予算に制約がある現状のもとで、二国間援助による成長の加速化支援の対象国は少数に絞り、他ドナーと戦略的連携を強化することは不可欠である。

### 2. 目的

- ・ アフリカ成長支援を具体化するために必要な内外の動き・情報を共有し（例：成長診断、広域インフラ整備、官民パートナーシップ、英国や世界銀行の動き、TICAD IVにむけた日本政府の方針）、今後、日本が実効性あるアフリカ支援を実施するためにとるべき行動を検討・提言する。
- ・ その際に、アフリカ諸国における東アジアの経験への関心の度合い、国際潮流、日本の支援実績（または予定）、現地における日本の援助実施体制等にも留意して検討を行う。

### 3. 参加者

- ・ アフリカ成長支援に関心を有する日本政府・援助実施機関、国際機関、研究者、民間セクター等の有志
- ・ 個人の資格での参加

### 4. 運営

- ・ 日時：1回/月程度 1時間半程度（18時半～20時頃）4月～7月に約4回
- ・ 場所：GRIPS
- ・ 進行：事務局または参加者からの問題提起（30分）+意見交換（60分）
- ・ 記録：概要をGRIPSのHPで掲載、発言内容は匿名とする。
- ・ 事務局：GRIPS 開発フォーラム（担当：大野健一、大野泉、ンコンゴロ・エルンバ）

< 検討会の日程・テーマ、暫定案 >

第一回（4月上旬） キックオフ会合

第二回（4月下旬）

- ・ アフリカ成長支援の具体化を考える ～「成長診断」への関与を中心に

第三回（5月～6月）

- ・ アフリカ成長支援の具体化を考える ～広域インフラ整備を中心に

第四回（6月～7月）

- ・ アフリカ成長支援の具体化を考える ～「工業化戦略」共同作成を中心に

\* 今後、日英報告書の刊行セミナーの東京開催の可能性についても英国関係者( DFID、英国大使館など)と調整予定

以上